

## 事後評価書

事業名	中山間地域総合整備事業 多気中部地区	事業区分	農業農村整備事業	室名	農山漁村室															
事業概要	工期 (下段計画)	平成7年～平成14年	全体事業費 (下段計画)	3,870百万円 (負担率: 国 55.0% : 県 30.0% : 他 15.0%)																
		平成7年～平成13年		4,200百万円 (負担率: 国 55.0% : 県 30.0% : 他 15.0%)																
事業目的及び内容	<p>当事業区域は、旧多気町、旧大台町、旧勢和村に跨る中山間地域であり、農地は急傾斜地・未整備で分散しているなど、地理的条件が不利な地域で、高齢化とも相まって農地の保全が課題となっています。一方で、近畿自動車道の延伸や広域農道の整備など、道路交通網の整備が進展してきており、都市と農村、生産地と消費地の距離が縮まってきています。</p> <p>こうしたことから、当事業は、ほ場整備や用水・排水などの農業生産基盤の整備を行い農地の汎用化、農作業の省力化、農業経営の安定化を図りつつ、あわせて農業集落道、農業集落排水や活性化施設等の生活環境基盤の整備を行うことにより、地域の振興を図ることを目的として実施されました。</p> <p>農業生産基盤整備                      農業用水・排水 L=19.1km、農道 L=12.3km、ほ場整備 A=9.45ha、                      農地防災・ため池7箇所</p> <p>生活環境基盤整備                      農業集落道 L=12.2km、農業集落排水 L=7.0km、活性化施設 3箇所</p>																			
1・事業の効果	<p>「直接的効果」</p> <p>① 計画時の事業目的の達成状況の評価</p> <p>区画整理や道路・水路の整備を行うことにより農作業における機械化や、ほ場の排水不良の解消が図られたことに伴い、農作業の効率化や維持管理労力が低減され、耕作放棄地化が防止されています。</p> <p>農産物や特産品の直販施設が整備され、地域でとれた安全・安心な農作物が出荷されるようになり、地域内外の方々に評価を得ています。また、整備された活性化施設へは地域内外から多くの方が訪れ、リピーターも多いなど満足度の高い施設となっています。</p> <p>② 当初の効果と完了後の効果の比較結果</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 40%;">計画時の投資効率</td> <td style="width: 20%;">= 1.03</td> <td style="width: 40%;">活性化施設(多気)利用人数</td> </tr> <tr> <td>現在の投資効率</td> <td>= 1.04</td> <td>計画</td> </tr> <tr> <td>(内訳、詳細については別添資料参照)</td> <td></td> <td>実績(H19年度)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>17,942人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>18,240人</td> </tr> </table> <p>③ 完了後の利用、維持管理の状況はどうか</p> <p>農業生産基盤の整備により農業機械の導入が進んでいます。また、土地改良施設については維持管理労力が低減され、水路の土砂上げやのり面の草刈り等が集落での出会いなどの共同作業により、適正に管理されています。</p> <p>「間接的効果」</p> <p>① 波及的効果はどうか</p> <p>定量化(金額換算)できない他の効果</p> <p>○事業で整備した活性化施設「おばあちゃんの店」の近くに、高校生が経営するレストラン「まごの店」が平成17年に開店しました。ここでは「おばあちゃんの店」の農産物を素材としたヘルシーな美味しい料理が食べられると評判になり多くの方が訪れます。世代間に絆ができ、それを地域の人々は誇りにしています。</p> <p>○活性化施設「元丈の館」では地域のボランティアを講師に「自然の学校」年15回以上開講し体験学習会が開催されています。施設に「足湯」が平成15年に設けられて、健康・憩いの場として知られるようになり、都市と農村の交流が行われています。</p>					計画時の投資効率	= 1.03	活性化施設(多気)利用人数	現在の投資効率	= 1.04	計画	(内訳、詳細については別添資料参照)		実績(H19年度)			17,942人			18,240人
計画時の投資効率	= 1.03	活性化施設(多気)利用人数																		
現在の投資効率	= 1.04	計画																		
(内訳、詳細については別添資料参照)		実績(H19年度)																		
		17,942人																		
		18,240人																		
2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	<p>アンケート結果からは「ゴミが捨てられなくなって環境がよくなった」、「川がきれいになった」など意見がある一方で少数ではありますが「用水路から魚類が減少した」との意見もいただいております。</p>																			

### 3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

農産物価格が低迷し、高齢化が進展しているなか、営農意欲が低下していましたが、農業生産基盤の実施により、生産性が向上したこと、維持管理の省力化が図られたこと、また、農地・水路等の保全活動や景観形成活動等に財政的支援をする制度（農地・水・環境保全向上対策）が確立されたことから、営農意欲や地域の農地を守っていくという意識が高まっています。

国民の食に対する安全・安心、地産地消への関心が高まり、農村の直売所で販売される地物の農産物・特産品への需用が増大しています。また、自然豊かな農村・癒しの空間への関心も増大しており、都市と農村の交流を目的に整備された活性化施設は、地域内外の人々が訪れます。

事業当時、鳥獣害対策は山間部等の限られた地域以外は実施することができませんでした。平成19年度に鳥獣害防止特措法が制定され、多気町、大台町は有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置など総合的に実施していきます。

### 4・県民の意見

#### ① 県民の意見の徴集方法について（どの範囲の、だれに対して、どのような方法で、どんな内容か）

##### 【地域の人へのアンケート】

- ・ 地域内の全63集落から事業費の多い16集落を抽出し、それぞれ集落から各20戸、全体で320戸にアンケート調査を実施しました。
- ・ 質問事項は 1. 中山間地域整備事業の認識の有無、2. 農作業の委託の有無、3. 農業面での効果の有無、4. 農産物の活性化施設への出荷の有無、5. 今後の農業の方向 6. 生活環境基盤整備の効果の有無、7. 活性化施設の効果の有無、8. 農地や施設の管理状況、9. 自然環境・景観への影響の有無、10. 今後、事業を実施する場合の配慮すべき点について、の10項目です。

##### 【施設を訪れた人へのアンケート】

- ・ 集客交流を目的に整備された2つの施設（おばあちゃんの店、元丈の館）を訪れた人、193名にアンケート調査を実施しました。
- ・ 質問事項は 1. どこから来られたか、2. 利用頻度、3. 利用目的、4. 施設の印象、5. 施設の効果、6. 意見 の6項目です。

#### ② 県民の意見の内容（全体の意見と肯定、否定意見等）について取りまとめ、評価する

##### 【地域の人へのアンケート】

- ・ アンケートでは農家174戸、非農家82戸、計256戸から回答を得ました。（回収率80%）

①事業の認知度は84%でした。

②農作業の委託については、全体の51%が何らかの作業を委託しており、その内19%は基幹3作業を委託しています。

③事業実施による農業面での効果（複数回答）では、73%が「効果があった」と評価しており、特に「農作業が楽になった」48%、「農道や用水路、排水路の維持管理が楽になった」40%、また、「耕作が続けられるようになった」14%、「遊休地対策として効果あり」10%など、事業による省力化や耕作放棄の防止効果が評価されています。

④活性化施設への出荷については、「出荷している・したことがある」「出荷してみたい」が36%と、関心も高く、農家と活性化施設の繋がりができていると考えられます。ただ、さらなる出荷の増については受け入れる側の活性化施設の容量もあって困難な状況です。

⑤今後の農業の方向については、57%が「今後も農業を続けたい」としており、事業実施により営農意欲が高くなっています。一方で、28%が「農作業を委託したい」としており、そのうち約半数が「すべての作業を委託したい」と回答しており、今後、受委託への取り組みをさらに進めていく必要があります。

⑥生活環境基盤整備の効果（複数回答）については、61%が「効果があった」としており、そのうち「道路の通行がスムーズになった」34%、「集落内の排水が改善された」28%など事業の実施が地域の生活環境の改善に寄与していると考えられます。

⑦3つの活性化施設については、効果あったとするのが「おばあちゃんの店」90%、「元丈の館」76%、「ふるさと耕房」62%で、特に2つ集客交流施設の効果が高く評価されています。

⑧農地や施設の管理状況については、「適正である」54%に対して「適正でない」が4%となっています。水路の土砂上げや草刈り、道路補修などの維持管理が、おおむね適切にされていると思われます。

⑨自然環境への影響について、「よい影響」「変わらない」が42%に対して「わるい影響」4%と事業による負の影響は比較的小さかったと思われませんが、「用水路から魚類が減少した」との意見もあることから、今後事業を行うにあたっては、自然に十分配慮した対策をとる必要があると考えます。

また、景観に関しては「よい影響」「変わらない」45%に対し「わるい影響」1%でした。「ボランティアによる活動で花を植えるようになり景観が良くなった」「ごみが捨てられなくなった」など、景観に対するプラス評価が多く見られました。

- ⑩今後の事業実施する場合の配慮すべき点については、「地域の意見を計画に反映させること」、「自然環境や景観に配慮すること」、などの意見をいただいています。

#### 【施設を訪れた人へのアンケート】

- ①来訪者は、両施設とも多気町内が17%、町外が83%で町外からの利用が多く、「おばあちゃんの店」で99%、元丈の館で88%がリピーターの利用です。
- ②利用目的では、両施設ともに農産物や地域の特産物の「買い物」が一番多く、「元丈の館」では、「足湯や食事」、「交流・社交」、「研修・学習・体験」など多目的に利用されています。
- ③施設の印象については、「おばあちゃんの店」では、ハード面、ソフト面ともに「ややわるい」が3%に対して、「よい」「おおむねよい」が50%を上回っており、良好であると言えます。  
同じく、「元丈の館」は「よい」「おおむねよい」が約90%と、訪れる人の満足が見られます。
- ④地域の活性化に役立っているかについては、両施設ともに90%以上の人が「役立っている」「おおむね立っている」と回答しております。
- ⑤施設に対する自由意見として、「おばあちゃんの店」では「野菜などが安くて安心して食べられる」「旬のものが豊富でよい」など販売されている地域の農産物への評価が高く、一方で「土日は駐車場が混雑する」「お目当ての商品が無いときがある」などの意見もありました。  
また、「元丈の館」では、「静かな環境で落ち着く」「足湯がよかった」「職員の対応がよい」など農村の持つやすらぎ・憩いの効果が高く評価されています。一方で「進入路がせまいので拡幅する必要がある」、「バスが運行されていればもっと利用しやすい」などのアクセスに関する意見もありました。

#### 5・今後の課題等

○中山間地域においては、過疎と高齢化による後継者不足により営農意欲が衰退し、耕作放棄が懸念されていましたが、当事業の実施により、「営農意欲」と「農地を守る」という意識が高まりました。今後これを持続させるためには、集落営農や作業の受委託等に積極的に取り組み、農業経営の効率化と担い手の確保を図っていく必要があります。

○農地や農業用施設の保全については、農地のあぜ草刈や道路や用排水路の維持管理を農家のみで実施することが、困難な状況になってきています。このため、農地や農業用施設は、地域の共通資源として非農家も含めた地域全体で保全に取り組むことが必要です。（「農地・水・環境保全向上対策」の推進）

○現在、活性化施設には多くの方が訪れています。ところが、中身に変化がなければ魅力も減少してしまいます。現在の活況を持続・向上させるためには、新たな魅力の開発と、活性化のリーダーの確保や育成が必要です。

今後の中山間地域における事業の実施については、こうした認識をふまえ、地域の人とともに考え、効率的で効果的な事業実施を行っていきたいと考えています。